

マグロ漁場調査 - (熱帯性まぐろ資源対策調査委託事業)

榊純一郎

【目的】

熱帯性マグロ類の本県漁業者による安定的な利用を図るため、WCPFC(中西部太平洋まぐろ類委員会)が行う資源解析に必要な移動回遊・死亡率・成長等の情報を収集・提供する。

【方法】

夏季～秋季に沖永良部島の曳縄漁船延べ12隻を用船し、同島周辺の浮魚礁に来遊するメバチ及びキハダを対象に標識放流を実施した。

【結果】

7月下旬及び10月中旬の計4日間でメバチ2尾、キハダ565尾の計567尾について標識放流を行い、独立行政法人水産総合研究センター(以下水研センターと称す)へ報告した。

また、メバチ3尾、キハダ43尾の再捕があり、同じく水研センターへ報告した。再捕魚のほとんどは放流した浮魚礁漁場からほとんど移動していない短期間短距離再捕であったが、メバチの1尾は放流から2年4ヶ月後に沖縄本島東沖で再捕され、5kg(推定)のダルマ銘柄から30kg超のメバチ銘柄へ成長していた。

表1 平成22年度熱帯性まぐろ類標識放流概要

項目	夏季	秋季
実施期間	平成22年7月27日	平成22年10月28～15日
実施場所	沖永良部島周辺浮魚礁	沖永良部島周辺浮魚礁
放流尾数(メバチ)	1(1)	1(1)
放流尾数(キハダ)	36	529
尾叉長(メバチ)	54cm	47cm
尾叉長(キハダ)	36～56cm	32～90cm

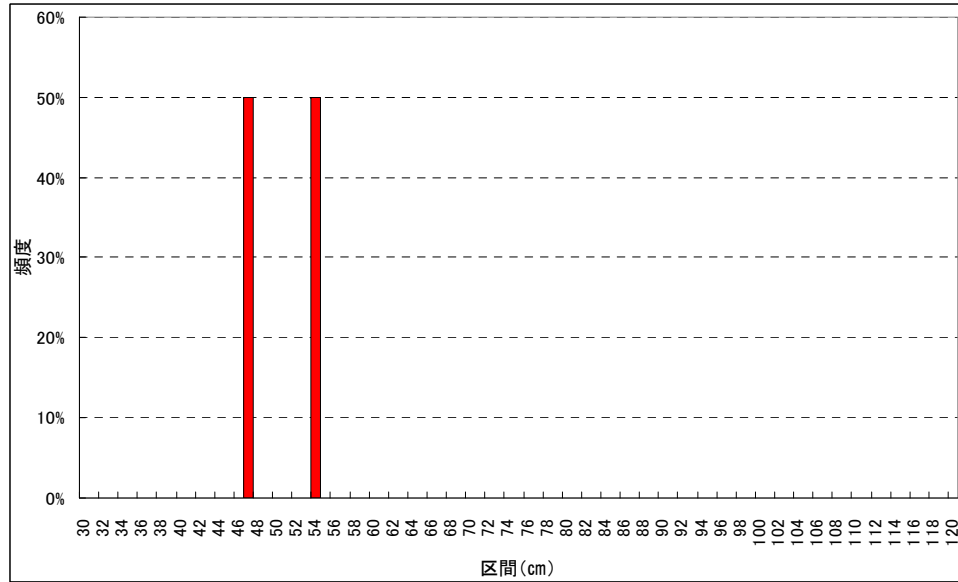


図1 放流メバチ及びキハダ尾叉長組成

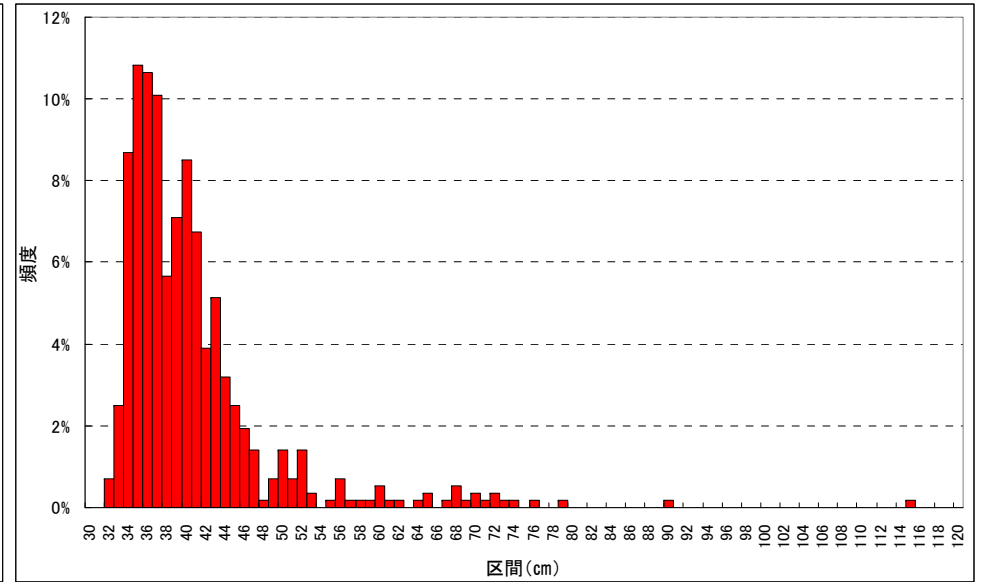


図2 放流キハダ尾叉長組成

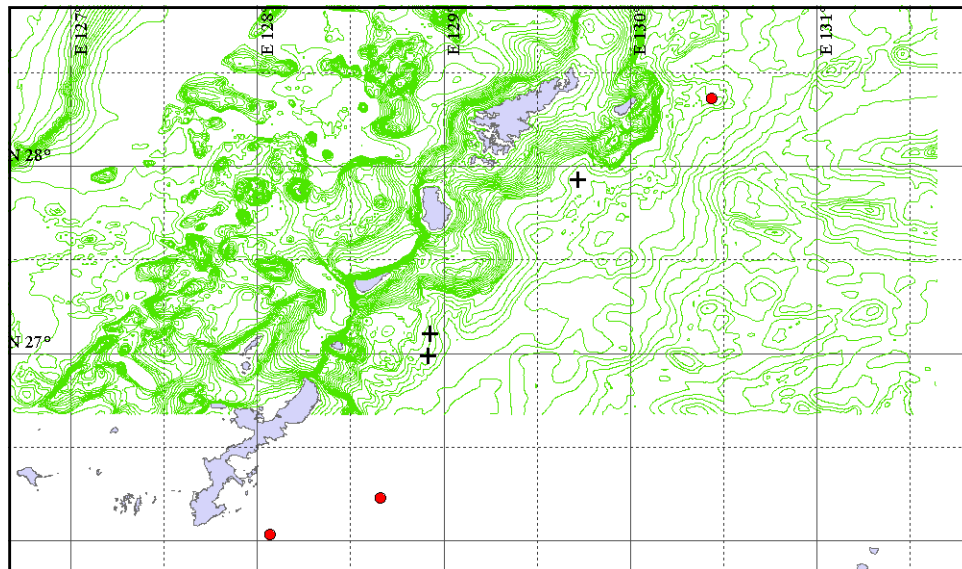


図3 メバチ再捕の移動図
+は放流箇所 ○は再捕位置

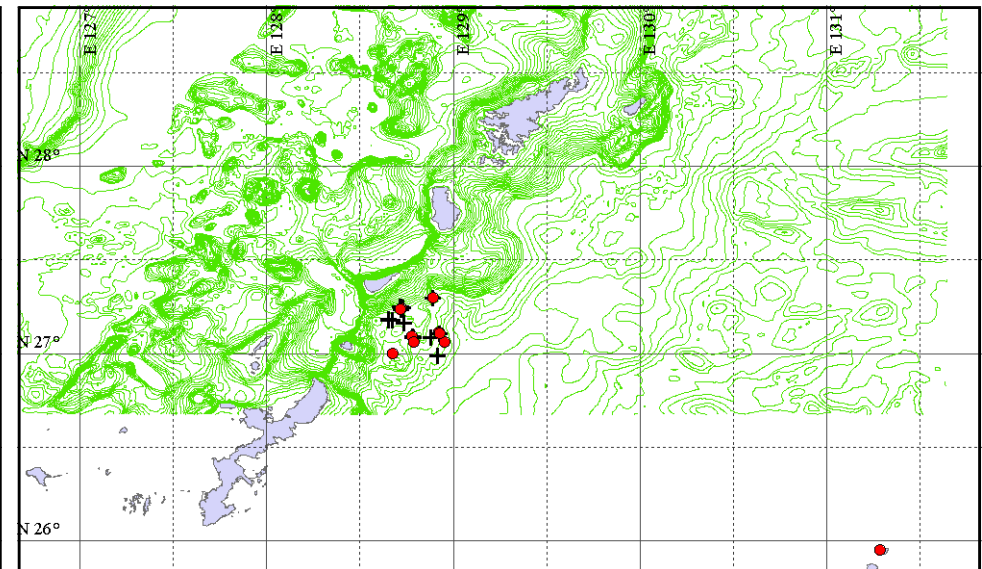


図4 キハダ再捕の移動図
+は放流箇所 ○は再捕位置